

世界の外貨準備の通貨構成から見えること

10 月初旬に IMF から今年第二四半期末の世界の外貨準備における通貨構成の内訳が発表された。今回のデータで特徴的なことは次の点だ。

ドルの割合はこれまでの最低水準になった。長期低減傾向が続いているのでそれ自体に驚きはないが、56%と言う数字は 50%割れを想起させ、そうした世界が現在の通貨体制や米国や世界にどんな変化をもたらすのか、懸念と興味は尽きない。もっとも今回の減少要因の多くはドルが他の通貨に対して下落した為替レートのためだ。ドル以外の通貨のドル換算額が増えた。

4 月にトランプ大統領が貿易相手国に大幅な関税を課すことをアナウンスしたことを契機にドルの下落に拍車がかかった。ドル指数(主要 6 通貨に対するドルの為替レートを指数化したもの)でみると第二四半期に 7%下落した。個別通貨ではユーロ、スイスフラン、ポンドなど欧州通貨に対して特に大きく下落した。

しかし外貨準備の割合を見るとドルから欧州通貨などへの大きなシフトは見られない。これはドル売りが先物主導であったことを推測させる。つまり債券などの外貨資産の為替ヘッジ取引が主体であったろう。

では通貨ごとに割合を見る。

1. ドルの割合は 56.32%だ。前期(第一四半期)は 57.79%だった。多くは為替レート要因だが、実際にドルからその他の通貨にシフトされた部分もある。
2. ユーロの割合は 21.13%だ。前期は 20.0%。21%台は 2020 年第 4 四半期以来だが、前期からの増加分はすべて為替レート要因のためだ。
3. 円の割合は 5.57%だ。前期は 5.60%。2020 年第四四半期には 6%を超えたが、以降は減少傾向にある。安全通貨としての需要は依然としてあるが、低金利が長く続くことが円の需要を弱めていると思われる。
4. ポンドの割合は 4.83%だ。前期は 4.74%。2021 年以降は概ね 4.7%台から 4.9%台の間で推移している。
5. カナダドルの割合は 2.61%だ。前期は 2.63%。
6. 人民元の割合は 2.12%だ。前期も同じ。ここ 1 年ほど似たような水準で推移している。人民元は外貨準備の構成通貨としては 6 番目の通貨で 7 番目のオーストラリアドルとほぼ水準だ。一方人民元の外為市場での取引量は世界で 5 番目に多い通貨だ。外貨準備は中長期の保有が一般的で、

金融商品の多様性や流動性がより重要になる。その点で人民元の市場は十分とは言えない。それが外貨準備が低水準で外為市場取引量との順位差になっている所以だ。

7. オーストラリアドルの割合は 2.09%だ。前期は 2.02%。以前はカナダドルと競っていたが、最近はその差が開くばかりだ。
8. その他通貨の割合は 5.17%で前期 (4.92%) より増加した。その他通貨とは上記に記した通貨以外の通貨の合計だ。その他通貨の割合の増加傾向は顕著だ。今やポンドを抜いて円の次に位置している。ドルの一極体制から多極通貨体制へのシフトを象徴する動きだ。それはドルを追う二番手のユーロをはじめ円、ポンドなどの主要通貨の低迷の反映とも言える。

以上です。